

平成30年度 第3回 新潟市男女共同参画推進センター運営委員会 議事概要

日 時： 平成31年3月14日（木） 午前10時～正午
場 所： 新潟市男女共同参画推進センター「アルザにいがた」 302研修室
出席者： 新潟市男女共同参画推進センター運営委員
齋木委員、西條委員、齋藤委員、指田委員、佐藤委員、永田委員、福田委員
事務局（男女共同参画課）
上所課長、小林主査、尾崎主査、長谷川

1 開会

2 男女共同参画課長あいさつ

3 報告

(1) 平成30年度事業報告（11月～3月開催事業）

(事務局) 各担当より主催事業の報告

(佐藤委員) 働く女性の生き方講座のアンケート結果で、「知っていたが利用したことはなかった」という人と、「知らなかった」という人が多く、案内チラシで講座を知った人が多い。チラシの入手場所が他の講座と異なって、保育園、図書館、こども園、子育て支援センター、学校とある。この人たちに、今までもこういう講座のチラシは届いていたのか。

(尾崎主査) 講座のチラシを配布する場所は、その講座によって毎回変えている。今回は子育て中の母親が対象だったので、子育て関係の施設に送った。

(佐藤委員) 他の講座もこういう保育園などをお願いするのはどうか。

(尾崎主査) 他の講座で保育園に送っているものもある。来てほしい対象者によって配布先は毎回検討しており、この講座については、子育て関係の施設で手に取っていただいた方が多くよかった。

(佐藤委員) 半年後にこの追跡調査をされるということなので、ぜひよろしくお願ひしたい。満足度も高く、本当にいい講座だったと思うが、起業セミナーとしては1回では足りなかったのではないか。女性のための起業セミナーだと、10回のももある。きっかけだけだということであれば、それはそれでいいが、2回目にはいろいろな支援制度など情報提供もあり、それだけでも結構大変なので、起業の方法や、経済的な面、自分の能力など、3回ぐらいあってもいいのではないか。

(尾崎主査) この講座だけで起業に結び付くとは私どもも考えてはおらず、この講座に参加して、ワーキングウィメンズアソシエーション（WWA）の起業の講座に参加するなど、もっと本格的なところにつなげられればいいと思ひ企画した。今回は、まずモチベーションを上げるということと、制度の紹介に重点を置いたので、これからそういったところにどれだけの方がつながっていくか注目したいと思ひている。

(佐藤委員) そういう情報提供もしたということであれば、なおのことよかったと思ひ。参加者で育休の人はどれくらいか。

(尾崎主査) 育休中の方というのは特に確認はしていないのでわからないが、講座のタイ

トルが「ママのための」とあるので、来てくださった方は半分以上が保育室を利用される方だった。

(上所課長) 起業については、アルザでやったことがなかったが、昨年6月に女性活躍推進計画の関係で、女性を多方面から支援するフェスタを開催し、その中の1コマで起業の講座を設けたところ、非常に多くの方からご参加いただいたので、いろいろな女性の働き方という視点で、アルザでも実施した。まずはきっかけづくりで、今後、より専門的に活動されている市内の団体につながるよう企画した。

(佐藤委員) 外部につなげていくことはいいと思う。

(上所課長) 行政だけでは持ち得ない能力や経験をお持ちの団体から、その力を活用させていただくことも必要と考え、今回はそのようにさせていただいた。

(指田委員) この講座の申し込みは54名だが、初回の参加者が40人でかなり少ないが、保育が受けられないなど何か理由があるのか。

(尾崎主査) 保育が必要な方は全て保育を利用していただいた。当日お子さんの具合が悪く欠席された方もいらっしゃったが、最初から1回目だけ、2回目だけしか参加できないという方も全て受け入れたため、このような数になっている。

(指田委員) つながっていくといいと思うが、終わった後にサークルなどはできたのか。

(尾崎主査) 今回は特につながりづくりというところはしていないので、できなかった。

(西條委員) 去年の夏に、アルザで久しぶりに起業を取り上げるというご相談をいただいた。WWAも、起業の支援講座をやっているが、いろいろな参加者がいて、若い方もいれば、年配の方でお仕事を退職され、培ったキャリアで第二の人生をとる方も多し。ただ起業という対象が絞れなくなるので、「ママのための」と絞ってはどうかとご提案した。

ママというのは、家庭があり、女性ならではの悩み事も多く、会社勤めが難しいという世代でもあるので、女性の生き方の選択肢として、起業があってもいい。起業は、お客さま次第というところもあり、ワーク・ライフ・バランスが取りにくい面もあるが、長い目で見たら自分で仕事をしていくので取りやすいところもある。

先輩起業者のゲストも、WWAの起業講座の卒業生の3名で、住んでいる区や、業種も違い、子どものことを考えて、もしくは、子どもがいて会社で働きづらくて辞めたという、いろいろなパターンの方を揃えたのでよかった。

ゲストの中には、受講者の方から個別にご相談を受けている方もいるようだが、半年後に起業している人は少ないと思う。今、子どもがいて、半年後は無理でも、1年後、2年後にはできている方もいるのではないか。長い目で見て、効果を測定してほしい。来年もぜひママの応援をしていただけたらありがたい。

(佐藤委員) 自己表現トレーニング講座は、サークルはできなかったということだが、アルザの登録団体の紹介などはされているか。

(長谷川) 登録団体の紹介はしなかった。

(佐藤委員) したほうがいいと思う。午前10時から正午に活動できる人なのでもったいない。

(長谷川) 毎回、最終回にはお茶会をしているので、その中で紹介し、つなげられたらいいと思う。

(佐藤委員) ジェンダーで社会を考える講座で取り上げたブーケの活動というのは、どん

な活動なのか。

(尾崎主査) 知的障がい者の結婚したいという意思を尊重して、身だしなみや付き合い方などを教えて、結婚後もサポートするというような活動をし、障がい者の思いに寄り添った支援をされている。

(佐藤委員) 例えば、性の問題はどうか。

(尾崎主査) 性の問題についても、きめ細かい対応をしながら見守っていく活動をされているそうだ。

(福田委員) 手のつなぎ方や、触ってはいけないところは「触っちゃいけないよ」というようなことも、丁寧に教えるそうだ。

(2) 男女共同参画市民団体協働事業の実施状況について

(事務局) 各担当より主催事業の報告

(佐藤委員) Father “H” Family が今回で最後ということで残念だ。

(上所課長) 男性の団体は、なかなかなかったの、非常に残念だと思っている。また、男性の生き方講座の参加者がつながりを持って団体が作れるような支援をアルザのほうでも引き続きしていきたい。

(3) アルザフォーラム2018について

(事務局) 開催状況説明

(上所課長) 今回は3人の実行委員に基調講演を企画していただいた。基調講演の講師は、平成28年が深澤さん、29年が稲垣さん、今回が犬山さんということで、今まであまり他のセンターで呼んでいなかった講師の方を見つけ、アルザを皮切りに全国で呼ばれるようになる傾向もあり、実行委員の皆さんの力があってこそと感じている。

分科会も、今回は女のスペース・にいがたさんのご協力で、種部先生から非常に貴重な講演をいただき、性教育は若いうちにきちんと学ばなければいけないと感じた。男女共同参画課で行っている「デートDV防止セミナー」は、今年度初めて中学校での実施がかない、来年度は全中学校で実施ができるようにということで全校分の予算要求をしている。

学生向けの分科会は、なかなか集客が難しかったが、今回は新潟大学の協力もあり、出前という形で講師を派遣して、多くの学生に聞いていただいた。講義の中ではあまり反応がなかったが、レポートはしっかりとした感想が多かった。

また、団体の皆さまからご協力をいただき、たくさんのワークショップを出店していただいた。来年度もこのような形で、皆さんからのご協力をいただいてフォーラムを開催していきたい。

4 平成31年度主催講座について

(事務局) 主催講座説明

(佐藤委員) 人材養成の相談に携わる方のための講座は、相談に関わらない人も対象にするのか、それとも、スキルアップのためなのか、はっきりさせたほうがいい。

(上所課長) 対象としては、相談に携わる方としているが、チラシなどの広報では、興味のある方もぜひとしている。

広報は、それぞれの講座の対象となる方が多く集うような場所にチラシを置いていただいているが、市の事業のチラシがいろいろなところから来るので、ピンポイントで絞ってほしいというような要望もある。今年度は Twitter を始めてみたが、皆さんのご意見もいろいろ伺いながら、どういったところにどうアプローチしていけばよりよい広報ができるのか、考えながら進めていきたい。

- (西條委員) 男性の生き方講座の子育て期は、どういう内容でどういうふうに広報しようと考えているのか。
- (尾崎主査) 男性の生き方講座子育て期は、小さなお子さんがいる子育て中の男性を対象にしている。広報は、保育園などの子育て支援施設に一番力を入れているが、どちらかという、男性よりはパートナーにチラシを手にとってもらい、家へ帰って勧めてもらうほうが効果的だと感じており、パートナーに向けての広報を考えている。
- (西條委員) それでいいのだと思う。保育園と聞いてよかった。
- (上所課長) 男性だけが対象だと集客に苦労するところもあり、例えば、2回のうち1回はご夫婦で参加できるというようなプログラムも企画している。それから、そのチラシの配布先は、保育園や子育て支援施設の他に、例えば、3歳児健診の会場などにピンポイントでお願いしたり、公民館でちょうど子育て期の講座をやるようなところで宣伝をしてもらったりという連携もしている。
- (齋藤委員) 男性の生き方講座定年期は、団体のメンバーが毎年参加しているが、講座を受けて非常によかったと言っていた。企画委員の振り返りの中でグループワークを取り入れたほうが良かったとあったが、いい講師が来て、いい話が聴ければ満足度は高い。定年期の年代をターゲットにしつつ、また来年もいい講座をお願いしたい。
- (佐藤委員) チラシの配布先として、大きな企業には退職者会があるので、そこに行くといろいろな人が来ているのでいいかもしれない。
- (齋木委員) 私を大切にするためのカウンセリング講座は5回連続ということだが、5月から6月で5回、11月から12月もまた違うメンバーで5回ということか。
- (長谷川) そのとおりで、内容の違う講座になる。

5 その他

- (事務局) 相談日の変更について説明
- (佐藤委員) 3月4日の保育室開放の企画はどうだったのか。また、いわゆるソーシャルメディアの登録数はどんな感じか。登録団体は去年の4月で62団体だったが、それから減っているのか増えているのか。
- (長谷川) 保育室イベントは、3月4日に今年度の最終回を開催した。SNSや児童センターでも案内したが、天候が悪く1組の親子の参加だった。手遊びや絵本の読み聞かせ、工作などをして遊んでいただき、満足していただけたと思う。
- SNSは、30名ほどフォローをしていただいております、イベントの告知や報告をしている。
- 新年度の登録団体は現在集計中で、5団体くらいから登録しないと聞いている。
- (事務局) 新年度の運営委員会の第1回目は昨年と同様6月頃の開催を予定しているが、あらためて各委員の日程を調整のうえ案内する。